航海神・ツツノオ三神（住吉三神）

【日本神話】 ツツノオ

ツツノオ（筒男）はイザナギの禊により出現した海神です。瀬の深みで清めるとソコツツノオ（底）が、中間ではナカツツノオ（中）が、表面ではウワツツノオ（表）が誕生したとされます。その際、同じく海神であるソコツワタツミ、ナカツワタツミ、ウワツワタツミも生まれています。（イザナギ・イザナミにより生み出されたオオワタツミとは別神であり、また宗像三神とも異なる系統の海神です）

ツツノオ三神は、神功（じんぐう）皇后に神託を下した神として皇室において重要視され、また航海の守護神として、遣隋使や遣唐使の派遣の際にも篤く崇敬されていました。総本社は住吉（大阪）にあり、住吉三神とも呼ばれています。

【対馬の伝承】

延喜式に、対馬島下県（しもあがた）郡の名神大社・住吉神社の記録がありますが、対馬ではツツノオはほとんど活躍しません。対馬は大陸航路の拠点であり、国家神であるツツノオ三神を無視したとは考えにくいのですが、豊玉姫など異なる系列の海神信仰が濃厚で、その影に隠れてしまったのかもしれません。

ツツノオの名前の由来は、航海の目印となる星を意味する古語「ツツ」、対馬南部の豆酘（つつ）などいくつもの説があります。

コラム　住吉神社の分布

延喜式に記録された名神大社・住吉神社は、住吉（大阪府）、下関（山口県）、博多（福岡県）、壱岐、対馬（どちらも長崎県）に鎮座しています。

遣隋使や遣唐使の派遣の際には、まず大阪で安全祈願祭を行い、瀬戸内海を渡ると下関、外海に出て博多、玄海灘を越えて壱岐、そして対馬で最後の祈願祭を行い、はるかな中国へと旅立っていきました。

対馬近海は、自然の猛威や異国との緊張に満ち、神頼みをしなければ越えられない海域であり、住吉三神は朝鮮半島へとつながる大陸航路を守護すべく配置されていたのです。

なお、対馬の住吉神社は古い時代に、鴨居瀬（対馬市美津島町）から鶏知（同町）に移祭したと伝わり、鴨居瀬を元宮、鶏知を新宮と呼びます。移祭の時期は不明で、どちらが延喜式に記載された式内社であるかは、古くから論争があったようです。